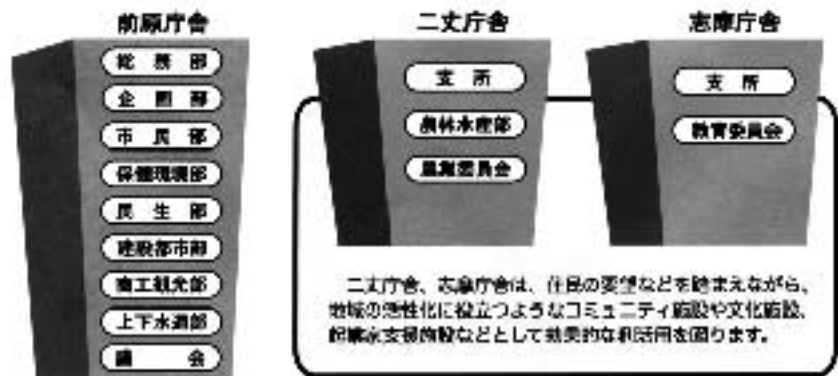


厳しい財政状況のもと合併は最大の行財政改革とされています。財政的に足腰の強い自治体を目指すことは一市二町それぞれの持つ良さ、強みを生かした、住民にとって住みよい誇りを持てるまちを継続して運営してゆくことにあります。

新市における具体的施策は新市基本計画に概要は示されましたが、本格的には合併施工後の新執行部と議会にゆだねられることとなります。

私も是非そのメンバーに加えていただき、その一翼を担い一生懸命頑張る覚悟です。よろしくお願いします。



# 「もったいない生活」の 実行が日本を救う！

発表されたデータによりますと、日本は世界で一番食べ物を捨てているといわれています。

その一方で全世界では8億人を越す人が食料不足に苦しんでいます。飢えや栄養不足による病気で毎日3万人、年間で1,000万人もの子どもたちが命を失っているといわれています。

報告によると日本人は1人1日当たり約50g、1年間に約18kgの食品を食べ残しそれらは捨てられているということです。

家庭の台所、学校給食又レストラン・スーパーから出る消費期限切れの弁当等です。

原油高騰に端を発した食料危機問題は我々に改めて食の大切さを問いかけました。食の安全確保、食料自給率アップ、国内農業を守ることの重要性等、国民すべての人が真剣に考えなくてはならない大事なことです。

食料の安全確保のために国内農業のあり方を見直し、再生産可能な農業として今後も維持してゆくための方法をしっかり再確認する必要があります。行政の役割、消費者がなすべきこと、そして生産農家がやるべきこと（命をつなぐものを、工業製品と同じ買うものとしか捉えられなくなる過ち。本当は安くて良いものなどない。）を明白にすることです。

これらを各々が理解し、行動し続けることで我々は安全な食料を安心して手に入れることを将来の子どもたちに約束できるのではないのでしょうか。

今、畜産農家は輸入飼料の急激な値上りで経営をおびやかされる程の苦境に立たされています。輸入する配合飼料に含まれるトウモロコシ、大豆が高騰し、又輸送コストもはね上がったからです。

それに反して生産される肉や牛乳、卵の価格に生産コスト上昇分を上乗せ出来ず我慢の日々が続いています。

ここで「食べ残しを家畜の飼料に」をテーマにいろいろな場所から出され廃棄処分にされていた食料を飼料「エコフィード」にする実証実験が前原市で実施されました。



各所より集められた食べ残し食品



混ぜ合わる児童達



飼料になるまでの説明を熱心に聞く児童・参加者



2時間程で出来上がった「エコフィード」



エコフィードをアイガモに食べさせる児童達